

阪神・淡路大震災15周年

兵庫県教職員組合・兵庫教育文化研究所は、「大震災の教訓に学ぶ教育創造」との取り組みをすすめてきた。とりわけ、被災地の子どもたちに対する教職員による心のケアの取り組みは、全国的にも例をみない実践として高い評価を得ている。阪神・淡路大震災15周年にあたり、この兵庫における心のケアの取り組みの検証をおこない、学校における日常的な心のケアのあり方についてを学ぶために、元FEMA(アメリカ合衆国緊急事態管理庁)のメンバー及びUTLA(ロサンゼルス教職員組合)の代表者をお招きし日本教職員組合との共催で国際シンポジウムを開催した。



全国から教職員のなかま、教育関係者など約250名が参加した。(1月17日、ラッセホールで)

「日常的な心のケアを考える国際シンポジウム」



発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 山名 幸一
編集人 川原 芳和
電話 050(3538)2346
1部7円 年定価280円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2010/1-21
No. 1759

2面

・阪神・淡路大震災15周年記念事業
「日常的な心のケアを考える国際シンポジウム」より
パネルディスカッション

児童・生徒、教職員 追悼の夕べ



神戸市立柱木小学校合唱団の美しい歌声が会場に響いた。(1月17日、ラッセホールで)

阪神・淡路大震災15周年記念事業のシンポジウムに引き続き、大震災で犠牲となった児童・生徒、教職員の方々のご冥福をお祈りするとともに、創造的な教育復興と、震災の教訓に学ぶ教育創造をめざす決意を新たにす。「追悼の夕べ」がおこなわれ、314人が参加した。追悼の歌として、神戸市立柱木小学校合唱団による「あわせ運べるように」が歌われた。

現在、日本は厳しい雇用・経済情勢が続く、その影響は深刻さを増している。しかし、大震災から学んだ「支え合い、励まし合い、困った人には手を差し伸べ、人問づくりをもう一度考え、防災教育・減災教育

復興と、震災の教訓に学ぶ教育創造をめざす決意を新たにす。「追悼の夕べ」がおこなわれ、314人が参加した。追悼の歌として、神戸市立柱木小学校合唱団による「あわせ運べるように」が歌われた。

黙祷の後、山名幸一兵庫県委員長は「節目の15年と言いが、『1・17を忘れてはならない、風化させてはならない』このことは、残された私たちの責務だと思ふ。そして『困ったときはお互い様』の精神は、阪神・淡路大震災からの復旧・復興ボランティアの中から学んだ教訓である。

大西孝県教育長は「震災からの創造的な復興に向けた、営々とした取り組みを積み重ねてきた。しかし、心の傷を受け、精神的に不安定な状況にある児童生徒がピーク時の4、106名から減少しているものの、今なお中学3年生で74名が在籍しており、これらの生徒の心の理解とケアに積極的に関わってほしい。さらに大切なことは、今までの経験を生かし、震災を経験していない子どもたちにも震災の経験と教訓を伝えるべく、これまでの支援体制の成果や活動のノウハウをとりまとめ、教員の災害時等における児童生徒の心の理解とケアの実践力を高めるとともに、各学校において児童生徒の心のケアの組織的取り組みを推進する」と語った。

メモリアルコンサートでは、四之宮亜沙美さん(神戸・魚崎小)と掛田沙耶子さん(神戸・小東山小)によるアルト・サクソフォンの二重奏が演奏された。続いて、小池由美さん(西宮・東山小)と神垣文恵さんによるソプラノ独唱の「手紙」では、涙する参加者もいた。震災で亡くなった児童・生徒、教職員の名前が刻まれた銘板に参加者が献花し、会場の参加者全員で「あわせ運べるように」が歌われた。

1月17日(日)、ラッセホールで阪神・淡路大震災15周年記念事業「日常的な心のケアを考える国際シンポジウム」が日本教職員組合、兵庫県教職員組合の共催で開催された。日教組の中村謙中央執行委員長をはじめ、全国から教職員のなかまなど約250名が参加、アメリカからはロサンゼルス教職員組合のA・J・ダツファイ会長夫妻、南カリフォルニア大学大学院教育学部副部長のマーリン・ウォンさん、メンタルヘルスコンサルタントのロベルタ・バインズティンさんが参加した。兵教組は阪神・淡路大震災から2年後の97年に、初めて国際シンポジウムを開催し今回で10回目を数える。これまでのシンポから、震災体験が深い心の傷となって残り、退行現状や情緒的不安定、頭痛や腹痛などのさまざまな症状を引きずる「トラウマ」を抱えた被災地の子どもたちには、「心のケア」が必要だと学んできた。



また、アメリカのFEMAのあり方に学びつつ、兵庫県では県教委と現場教職員が力合わせをした「震災・学校支援チーム(EARTH)」が発足。国内外のさまざまな自然災害の被災地に駆けつけ、兵庫の体験をもとに復興・復旧の支援活動を果たしてきた。この実績は、内閣総理大臣から防災功労者表彰を受けるなど高く評価されている。震災を体験した子どもたちが、今年度末で中学校を卒業し、文科省からの加配措置である心のケア担当教員も終了する見込みだ。しかし、震災による何らかの影響を受けている子どもの存在が調査結果より報告されている。また、自然災害はもとより、いじめや残虐事件、子ども虐待など心のケアを要する子どもは多い。

シンポジウムでは、富永良喜さん(兵庫教育大学教員)が力合わせをした「震災・学校支援チーム(EARTH)」が発足。国内外のさまざまな自然災害の被災地に駆けつけ、兵庫の体験をもとに復興・復旧の支援活動を果たしてきた。この実績は、内閣総理大臣から防災功労者表彰を受けるなど高く評価されている。震災を体験した子どもたちが、今年度末で中学校を卒業し、文科省からの加配措置である心のケア担当教員も終了する見込みだ。しかし、震災による何らかの影響を受けている子どもの存在が調査結果より報告されている。また、自然災害はもとより、いじめや残虐事件、子ども虐待など心のケアを要する子どもは多い。

これらの発言とフロアからの質問や感想をもとにパネルディスカッションがおこなわれ、活発な討議がおこなわれた。(裏面掲載)



宝塚市宝塚小学校二年 世良田 裕貴 (こどもの詩と絵 第29集より)

今まで以上に借りやすくなりました! **住宅購入・借替に** パワーアップしました!

NEW 「すまいる住宅貸付」

2010年1月12日締切分(2月15日送金)から

貸付限度額 3,000万円まで ➔ **4,000万円まで!**

抵当権設定不要貸付額 1,000万円以下 ➔ **1,500万円以下** 抵当権設定不要

毎月の返済限度額も変更となりました! 厚生会での貸付償還合計が給料月額(勤続を要しない)の**10分の3以内が限度額** ➔ **10分の4以内が限度額に!!** (厚生会の全貸付通算)

借還途中の借還額変更手数料**0円** 特約プランの借還額変更手数料**0円**

金利以外にも**メリットがいっぱい!!**

繰り上げ返済手数料**0円** 保証保険会社への事務手数料**0円**

★さらに 2010年1月12日締切分(2月15日送金)から2010年3月25日締切分(4月30日送金)まで **期間限定**

キャンペーン金利にてご案内!

すまいる住宅貸付	(2010年1月1日現在)	キャンペーン金利(年利)
区分	基準金利(年利)	
特約固定金利	2年	1.26%

※1 基準金利とは、「すまいる住宅貸付」の基準となる金利で、特約の再設定や既貸付に適用する金利です。
※2 キャンペーン金利とは、新規に「すまいる住宅」をご利用いただく方に適用される金利です。

お問い合わせ先 **(財)兵庫県学校厚生会信用共済部**
TEL 078-331-9974 (直通)

